

平成30年度 県立土浦第三高等学校自己評価表

No.1

目指す学校像	生徒一人ひとりの個性や自立心を伸ばし、「生きる力」や「豊かな心」を育み、社会に貢献できる人材を育成する学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>「文武両道」を推進するとともに、広い視野と適切な判断力、たくましい実践力を備えた心身ともに健全な人材の育成を目指して全職員が一丸となって教育活動に取り組み、前年度以上の進路実績を残すことができた。</p> <p>今後もさらに実績を残し、地域社会からの期待と信頼に答えることができるようなお一層努力する。</p>	<p>学力の向上を図り、自らの力で未来を切り拓く知性や教養など、活用できる能力を養う。</p>	<p>① 確かな学力の定着を図り、国公立大学及び難関私立大学への進学の実績をさらに伸ばす。</p> <p>② 学習意欲の高揚に努め、自発的学習の習慣化と家庭学習の確立を図る。</p> <p>③ 個別面談及び保護者面談を充実させ、個々の学校生活の目的や進路希望を明確にし、自己実現に向け主体的に取り組む態度を育成する。</p> <p>④ 年間指導計画の見直しと検討を重ね、思考力・表現力の育成を図る授業の実践に努める。</p> <p>⑤ 進路希望の実現に向けた課外活動の充実を図る。</p> <p>⑥ 生徒の個々の興味や関心、適性等に応じた進級時の適切なコース選択を実施する。</p> <p>⑦ 商業関係学科において、専門科目の学習内容の充実を図り、資格取得の実績向上と進路実現を目指す。</p>	B
	<p>文武両道を推進するとともに、様々な体験や学習活動を通し、心身ともに健全で豊かな人間性を養う。</p>	<p>① 特別活動等の充実を図り、活力ある学校生活の創造に努めるとともに、調和のとれた生徒を育成する。</p> <p>② 生徒の規範意識を確立し、本校生としての自覚とマナーを心得た生徒を育成する。</p> <p>③ 道徳教育を推進し、人間としての生き方や在り方に関する指導の充実により、豊かな人間性・社会性を身に付けさせる。</p> <p>④ 生徒会活動や各種委員会活動の活性化を図るとともに、様々な学校行事を通じ、個々の生徒の学校生活の充実を図る。</p> <p>⑤ 校外活動やボランティア活動への積極的参加を推進し、社会において必要な実践力を育成する。</p> <p>⑥ 文武両道を推進し、知育、徳育、体育のバランスのとれた学校運営を実践する。</p>	A
	<p>キャリア教育を充実し、望ましい職業観や勤労観及び社会性を養い、将来の夢や希望の実現を目指す。</p>	<p>① 生徒個々の自己理解と職業に対する意識の高揚を図り、希望や適性に応じた進路実現のための的確な支援を行う。</p> <p>② 生徒の主体的な進路選択及び目標達成を支援するため、進路相談・学習相談・就業体験の充実を図る。</p> <p>③ 就職試験や面接試験対策等の充実を図り、将来的な生活設計の基盤づくりを充実させる。</p> <p>④ 適切な進路指導実践のため、本校の現状分析や教員の研修機会を充実させる。</p>	A
	<p>普通科と商業関係学科の併設校として、地域に信頼される学校づくりを目指す。</p>	<p>① 普通科・商業関係学科それぞれの進路目標の実現に向けた授業内容の充実および関係機関との連携に努める。</p> <p>② 学校のさらなる発展に向け、学校評議員・保護者・地域住民等からの情報や意見を聴取し学校運営に活用するとともに、地域の関係機関との連携強化を図る。</p> <p>③ 中学校訪問を実施し、本校理解の推進を図る。</p> <p>④ 保護者や地域住民との情報交換を密にし、相互理解と協力体制の確立を図る。</p>	A

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導	生徒が自ら学び、意欲的、主体的に学習活動に取り組む授業を目指す。	授業内容を充実させるため、事前の教材研究を十分に行う。	B	・主体的、対話的、深い学びを意識した授業展開をさらに深め、家庭学習の習慣化に繋げる。
		授業ごとに、生徒が進んで学習できたかどうか指導内容を振り返り、授業の工夫改善に努める。	B	
		進路希望に応じた学習指導の実践と授業の質的向上を目指す。	B	
国語	基礎学力の向上及び言語能力の育成を図る。	小テストや週末課題など、きめ細かい評価を実施し、基礎学力の向上を図る。	A	・引き続き、きめ細かな指導、アクティブラーニング、効果的な教材活用等を実践する。
	教材について理解の深化を図る。	調べ学習など、授業内での言語活動を工夫し、言語活用能力の育成を図る。	A	
	表現力の育成を図る。	便覧等の教科書以外の教材を活用し、教材の発展的な理解を図るとともに、伝統文化を重んずる姿勢を培う。 社会において必要な表現力を身に付けさせることができるよう、授業の工夫を図る。	A	
地理歴史	基礎学力の向上と進路目標の達成を図る。	学力の向上と家庭学習の定着を図るため、休業中の課題の工夫をはかる。	B	・内容を精選し、主体的に取り組めるよう授業の展開を工夫する。
	地歴科への興味・関心を高める。	普通科・商業に関する学科それぞれの特徴に応じ、他教科との関連の中で授業内容の精選を行う。 副教材や地図・プリントなどを活用し、身近なところからテーマなどを取り上げる。	B A	
公民	基礎学力の向上を図る。	プリントやワークを用い、作業学習や反復学習などを行う。	A	・主権者としての自覚を醸成するよう様々な課題に主体的に取り組めるよう工夫していく。
	公民科への興味・関心を高め、主権者としての自覚を高める。	新聞その他の時事問題をテーマとした集団学習を行い、多面的に学習意欲を喚起する。 副教材やプリントなどを活用し、身近なところからテーマなどを取り上げる。	B B	
数	基礎的・基本的な知識・技能の習得と学習意欲の向上を図る。	小テストや課題を実施して家庭学習習慣の確立を図り、基礎学力の定着を図る。	A	・基礎学力の向上 ・共通テスト等、新しい入試に合わせた授業展開の研究。
	生徒の実態に応じた指導と充実した授業展開を工夫する。	授業において生活との関連を重視した問題を提示し、数学の有用性やよさに気づかせることで、数学の学習に対する関心や意欲を高める。	B	
		教授内容をより深く理解できるように授業展開を改善・工夫していく。	副教材やプリントなどを活用するとともに、課外や補講等の実施や定期考査の問題の精選を図る。 新課程の授業展開や教材研究、前年度の事例等の情報交換を充実させる。 意欲的に学習活動が行えるよう、授業の進め方や説明および発問方法について工夫するとともに、新たな教材・教具を開発する。	
理科	自然科学のすばらしさを実感できる授業の実施に努める。	個々の授業内容に即したプリント・課題等を準備し、基礎学力の定着を図るとともに、センター試験にも対応できるような授業を展開する。	B	・興味・関心を持たせるための工夫。 ・基礎学力の確立。 ・センター試験や国公立二次に対応するなど個々への対応。
	運動の楽しさや喜びを感じることのできる授業を展開する。	自然科学(物理、化学、生物、地学)に関する研究の科学史等に触れながら、より興味関心の持てる授業を展開する。実物や実際の現象を見ることができるよう効果的な実験観察を実施する。	A	
保健体育	基礎・基本的な技能を身につけ、各運動種目の特性に触れることで、運動に対する学習意欲の向上を図る。	基礎・基本的な技能を身につけ、各運動種目の特性に触れることで、運動に対する学習意欲の向上を図る。	A	・新学習指導要領に対応するための「思考・判断」能力を育成する授業の在り方の検討。 ・授業での ICT 機器の効果的な活用。
	体力の向上を図り、公正・協力・責任などの態度を養う授業を展開する。	仲間と互いに励まし合いながら運動することによって、運動量の確保・体力の向上を図る。さらに、試合において定められたルールを遵守する態度の育成を図る。	B	
芸術	健康・安全について理解を深めることができる授業を展開する。	身近な話題や様々な視聴覚教材を工夫し、集団や個人の健康を理解させ、生涯を通じて自らの健康を適切に管理・改善していく実践力の向上を図る。	B	・教員の芸術的資質向上に努め、基礎・基本の充実を図ることで生徒の主体性を伸ばし、芸術的感性の伸長が実感できるようにする。
	芸術を愛好する心情を育てる。	幅広い活動を通して芸術への関心を高め、主体的な学習態度の育成を図る。 多様な表現の工夫ができるよう、基礎的・基本的な技術の習得を図る。 授業や学校行事、各種コンクール等への参加を通して、発表の場をつくと共に鑑賞の能力を高める。	A B B	
美術	美的体験をより豊かに味わえるように、授業の改善に努める。	授業内容の充実を図るため、教材研究や事前準備を十分に行う。	A	
		教員自らが常に芸術的な資質の向上に努める。	A	
		教科内での連絡を密にし、授業における問題点等を話し合う。	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教 語	基礎学力の向上と定着を図る。	ICTの効果的活用、授業改善および教材・課題を工夫する。	B	・新制度の入試への対応していくために、4技能の指導の研究。	
		基礎学力の定着を図るための小テストや課外授業を実施する。	A		
		教室外での英語の使用を促すような課題を設定する。	B		
		ALTの効果的活用を行う。	B		
	コミュニケーション力を育成する。	外部英語検定試験等の受検を支援する。	A		B
		ALTを活かした英語運用力および論理的思考力を育成する。	B		
科 庭	異文化理解・国際交流事業を推進する。	コミュニケーションを図ろうとする態度を育成するための授業展開の研究を行う。	B	・自立した生活者に必要な基礎的基本的知識技能の定着。 ・主体的・対話的な活動の充実と深い学びの実現。	
		異文化理解を促すための授業展開を工夫する。	A		
	基礎的・基本的な知識と技術を理解させ、実践的な能力や態度を身に付ける。	語学研修事業への関心を高める。	C		B
		興味・関心もてる教材を取り入れ、理解しやすい授業を工夫し展開する。	B		
	作品の完成・提出により達成感を持たせる。	実験・実習・視覚教材などの体験学習を多く取り入れ、ノート提出や課題など点検を通して学習態度の育成を図る。	A		B
		実験・実習などを通して各種技能・知識の向上を図る。	B		
情 報	情報に関する基礎的・基本的な知識や技術を習得させるとともに、問題解決能力の向上を図る。	現代の情報化社会で生き抜く力を育むよう、情報モラルに関する指導を充実させ、知識の向上を図る。	B	・言語活動を意識した教科指導方法の研究。 ・ICT活用能力の定着。 ・わかる授業の展開。	
		コンピュータの基礎的な操作の定着を図り、問題解決型学習の充実を図る。	A		
		言語活動の充実を図り、グループ活動等を取り入れるなど、生徒が自ら学ぶ意識を高める授業を充実させる。	B		
商 業	基礎的・基本的な知識や技術の定着と向上を図る。	課題等の提出を通して生徒一人ひとりの学習到達度を把握するとともに、個々の学習到達度に応じた指導を工夫し、確実な学力を身に付けさせる。	B	・教科指導と資格取得学習のバランスに留意。 ・普通教科との連携と、課外の在り方の研究。 ・進路別に受験すべき検定の精選。 ・言語活動の充実をし、コミュニケーション能力の育成を図る。	
		基礎的な知識や技術の定着を重点に置き、資格取得に関する指導とのバランスを図る。	A		
	各学年・部等との連携を図る。	選科指導、進路指導、課外授業等を実施するに当たり、定期的に会議等を実施し、効率的な指導内容の研究・実施に努める。	A		B
進路希望の実現に向けた効率的な指導を実施する。	言語活動の充実によるコミュニケーション能力の育成を図り、能力・適性・興味・関心、進路の多様化に対応した指導研究を充実させる。	B			
教 務	学力の向上や希望進路の実現に結びつく教育課程の編成や運営を行う。	教育課程の点検を実施し、生徒の学力を向上させ進路実現に結びつく創意に満ちた教育課程の編成を行う。	B	・進路実現に結びつく、特色ある教育課程の編成を行う。 ・授業時間の確保と学校・学年行事との調整を行い、授業の質的向上と充実した学校生活を目指す。 ・各種面談等を通して、生徒の学習や進路に対する意識の高揚を図る。 ・様々な機会を利用して、本校の特徴や教育活動を発信し、本校理解の推進を図る。 ・日常業務の円滑な実施に向け、更なる教育環境の整備に務める。	
		授業時間の確保と学校行事の調整を行い、授業と学校行事の効果的な実施を目指す。	B		
	全学年で共通に実施できる学習体制の構築を図る。	朝学習や放課後課外、検定課外等の調整を行い、主体的に参加できる学習時間の確保に努め、学力向上に繋げる。	B		
	考查計画(実施時間・時期、科目等)の検討を進める。	学科及び学年の特性を踏まえ、定期考查並びに課題・実力考查を適切に計画実施し、学習意欲の高揚に努めるとともに確かな学力の定着を図る。	B		
		模擬試験や検定試験等も視野に入れた授業を展開し、希望進路の実現に向けた学力の向上を図る。	B		
	生徒及び保護者面談の充実にも努める。	個人面談を通して生徒の学習や進路への意識を高め、学習習慣の定着や受験を目標とした学力の向上を図ることにより、一人ひとりの生徒に充実した学校生活を送らせる。	B		B
		保護者面談により生徒の学校や家庭での生活や進路希望等について家庭との連携を図るとともに、生徒の進路実現に必要な情報を提供し、家庭においても学習や進路意識の向上を図る。	B		
	本校の目指す教育活動の広報に努め、積極的な情報提供を図る。	中学校への訪問や学校説明会・公開授業等において本校の教育活動を公開することにより、普通科と商業関係学科の併設校として魅力を発信し、より一層の本校理解の推進を図る。	B		
		充実した学校生活をイメージさせる学校紹介パンフレットを作成する。	B		
		ホームページを活用し、本校の特徴や最新情報を積極的に公開する。	A		
日常業務の円滑な実施に努める。	コンピュータやネットワークの環境を整え、管理・運営を適切に行う。	B			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
生徒指導	規範意識の向上を目指す指導を実施する。	登校指導を教職員全員で年間を通して実施し、きちんとした身だしなみを徹底させるとともに、遅刻防止、挨拶の励行にも努めさせる。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の高揚 ・交通事故ゼロ ・問題行動の未然防止 ・生徒支援の充実
	生徒が健康で安全な生活が送れるように努める。	交通講話、交通指導等により交通マナーを向上させ、事故の未然防止にもつなげる。	B	
		段階的指導、学校内外の巡視を通じ、自己指導能力の向上と問題行動の未然防止に努める。	B	
		授業や講話を通じ、薬物の怖さを認識させ、問題行動の未然防止につなげる。	B	
	教育相談の体制を充実させ、健康に不安がある生徒の支援に努める。	各学年と連絡を密にし、健康に不安がある生徒の掌握に努める。保健厚生部とも連携し、教育相談等により生徒の不安を解消するための支援に努める。	A	
進路指導	生徒一人ひとりの進路実現を支援するキャリア教育体制の確立を図る。	各学年の適切な時期に進路研究や進路説明会を実施することによる生徒の進路意識の高揚を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・高大接続改革への対応 ・生徒の進路意識の高揚 ・教員研修に役立つ情報等の提供
		最新の進路データ・資料等を利用したホームルームを展開する。	B	
		各学年や他の分掌と連携したキャリア教育を推進する。	B	
	個別指導による進路指導の充実を図る。	個別面談による進路研究支援と学習支援を実施する。	B	
	学力向上のための支援をする。	進路希望別進路ガイダンス及び特別講座等並びに表現力養成講座及び面接・小論文対策を実施する。	A	
	就職支援の充実を図る。	課外授業・模擬試験の充実を図る。	A	
	就職セミナー等を実施するとともにインターンシップ制度の充実を図る。	B		
	教員の進路指導力向上を図る。	教員研修に役立つ情報等を提供する。	A	
特別活動	部活動の活性化に努め、実績の維持・向上を図る。	部活動を通して健全な体力と社会性を育成し、協調と連帯の精神を養うようにする。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・予算の検討 ・部活動、学校行事実施のための環境整備 ・学校行事の精選 ・行事における生徒会活動と委員会活動の連携
	生徒会活動や各種委員会活動の活性化に努める。	部活動の環境を整えながら、より一層活発な活動が行われるようにする。	B	
		生徒会活動や委員会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員として学校生活づくりに主体的に取り組む態度を育てる。	A	
	ホームルーム活動や学校行事を通じ、個々の生徒の学校生活の充実を図る。	ホームルーム活動の時間を活用し、豊かな心の教育を充実させる。	B	
		学校行事を通して、集団への所属感や連帯感を深め、学校生活を築こうとする自主的な態度を育てる。	A	
保健厚生	保健管理・保健教育を充実させる	生徒が心身の健康に関心を持ち、常に自らの生活状況を見つめ、自ら健康の保持増進を図れる姿勢を身につけさせる。心身の健康に配慮が必要な生徒について教職員間で共通理解を図り、必要な配慮を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教育環境を整えるため清掃の徹底 ・地域住民参加の避難訓練実施 ・心の病を抱えた生徒へ対応
	環境美化につとめ、安全で快適な教育環境を整えられるよう組織	清掃状況を定期的に点検し、適切な指導を行うことにより清掃の徹底を図る。清掃用具等の補充・交換を円滑に行う。新校舎での生活環境の整備に努め、より快適な生活ができるようにする。	B	
	防災意識の高揚に努めるとともに、避難計画の職員・生徒への周知徹底を図る。	HR等を利用して、生徒の防災意識を高める。火災や地震の際、安全かつ速やかな行動ができるよう避難訓練を計画実施する。教職員の協体制を確立する。家庭やPTAとの連携を図る。	B	
	特別支援教育体制の整備。	他の分掌、学年とも緊密に連絡を取り、教職員全体の協体制を確立する。家庭やPTAとの連携を図る。	B	
図書視聴	図書館の環境整備に努め、学習・読書活動の支援につながる図書	図書資料を適切に配列し、利用しやすい環境を整える。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・探究の支援 ・インターネット環境の整備
	・視聴覚資料の充実を図る。	各教科・分掌等と連携し生徒のニーズに合った資料収集に努める。	A	
		図書委員会活動の活性化を図り、生徒にとって親しみやすい図書館作りを行う。	B	
	生徒および職員の積極的な図書館利用を促す。	印刷物や掲示物等を通じて生徒・職員に図書館利用を呼びかけ、利用者増加に務める。	B	
渉外	PTAの各行事の内容充実を努め、保護者への積極的な参加を呼びかけことにより家庭との連携を密にする。	PTA総会・支部会などへの参加を積極的に促し、内容や資料の充実を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA関連行事への出席率の増加 ・PTA本部役員会の円滑な運営
		生徒の学校生活に保護者が接する機会として、授業見学や登校指導を計画する。	A	
		学校の教育活動への理解や支援を得るために、PTA広報紙「岩田ヶ丘」を年2回発行する。	A	
		会員相互の理解と親睦のために、「PTA親睦会」や「PTA研修」などを実施し、PTAの組織の充実と結束を図る。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
第1学年	学習環境の整備と希望進路の実現に向けた指導を推進する。	明るく、何事にも意欲的に取り組むことが出来る環境を作る。	A	A ・「探究」実施と、主体的に生きていくための進路開拓に向けた意識を高揚させる指導の実践 ・上と連動したC I s s i ・手帳の更なる有効活用 ・視野を広げ、他者との協調性を育む学校行事への参加の促進 ・保護者・外部への情報発信と更なる信頼関係の構築
		自身の将来像をしっかり見据え、進路実現ができるよう支援する。	A	
		礼節を重んじ、社会貢献ができる人間形成を目指す。	A	
	基本的生活習慣の早期確立を図る。	規則正しい生活習慣を身に付けさせる。	B	
		きちんとした挨拶や適切な言葉遣いや態度をとれるよう常に意識させる。	B	
		時間を守り、有効に使う習慣を定着させる。	B	
	学習習慣の定着を図る。	毎日の授業にしっかりと取り組み、基礎学力を着け、家庭学習習慣の定着を促す。	A	
		面談や講話等を通して、学習・進路に関する情報を効果的に発信し、目的意識を高める一助とする。	A	
		朝学習、放課後の課外により、基礎学力を定着させ、発展的な学習へと結びつける。	A	
	進路の適切な導きを図る。	進路に対する高い目標を掲げ、その実現に向けて継続して努力させる。	B	
		希望進路や自分の適性にあった分野を選択させる。(普通科)	B	
		希望進路や自分の適性にあった科を選択させる。(商業に関する学科)	B	
道徳教育の充実に努める。	自己理解や他者理解を深めつつ、人間としての生き方について考えさせ、豊かな心と生きる力を養成する。	A		
	視野を広げ、他者との協調性を高め、社会に貢献できる人間の育成を図る。	A		
第2学年	学年活動のさまざまな場面とおして進路実現のための指導を進める。	生きること、働くことの意味を考えさせる。	B	B ・希望する進路分野とそれぞれの生徒の学力能力に応じた指導。 ・生徒の希望が多様化する中で、個々に応じた目標設定の在り方。 ・基礎学力向上へ向けた普段の家庭学習習慣の定着と、学習時間増のための方策。
		妥協のない的確な進路選択をさせる。	B	
		進路実現のための忍耐力と体力を身につけさせる。	A	
	基本的生活習慣の確立を図る。	粘り強く、きめ細い生徒指導(進路指導・生活指導)を行う。	A	
		高校生としての自覚を持たせ、規律ある行動を求めると共に、学校生活に意欲的に取り組ませる。	A	
		保護者との連携を密にしながら、服装・頭髪指導及び欠席・遅刻指導の徹底を図る。	A	
	学習習慣の定着を図る。	面談を通して、効果的な学習方法を提案し、家庭での学習習慣の定着を促す。	B	
		学習・進路に関する情報を効果的に発信し、学習における目的意識を高める一助とする。	B	
		学習環境の整備に努める。	B	
	進路の適切な導きを図る。	継続して朝の自習時間を用い、基礎学力の定着を図る。	A	
		高い目標を持ち、目標実現のために努力の継続を促す。	B	
		各分野の目標を理解させ、適切な進路選択を導く。また、進路実現のための努力を促す。(普通科)	B	
		各学科の目標を理解させ、適切な進路選択を導く。また、進路実現のための努力を促す。(商業に関する学科)	B	
第3学年	進路実現に向け、希望進路に応じた学習指導を行う。	国公立大学と難関私立大学への進学実績の向上を目指す。	B	B ・進路希望と生徒個々の学力に応じた進路指導の充実。 ・配慮を要する生徒への対応。 ・保護者の理解を得ながらの粘り強い生徒指導。
		模試(センター試験)レベルの問題に対応した学習指導を行う。	B	
		課外授業の充実を図る。普通科においては受験科目を考慮し、実践的な指導を行う。	B	
		休日における学校での学習環境の整備を図る。	B	
		朝の学習時間の中で、基礎学力の定着、表現力の向上を図る。	A	
	就職内定率100%を目指す。	学級担任・教科担当による個人面談・個別指導等を通して、効果的な学習方法を指導していく。	A	
		就職説明会、面接指導、志望理由書の書き方指導等を早期から適宜実施する。	B	
		商業に関する学科においては、希望進路の実現に向け、引き続き上級資格取得を目指した指導を行う。	B	
	最高学年として、社会人となることを意識した基本的生活習慣の確立を図る。	保護者の理解を得ながら、登校指導、授業開始時、HR等を利用して、服装・頭髪指導を粘り強く継続実施し、きちんとした身だしなみの徹底に努める。	B	
		就職・進学面接等を意識した礼法指導、生活指導を実施する。	A	

※評価基準:A:充分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない